

やすらぎ

2017.6

june

Vol.73



つがる市「ベンセ湿原」

青森市から車で約一時間、夏になると、特産のメロンやスイカの出店が並ぶ、つがる市のメロンロードを走る。大きな風車を海手に曲がると、見えてきたのが「ベンセ湿原」。微かに雪を残し、ツンと尖った岩木山と、黄色いニッコウキスゲのコントラストが美しい。

青森県の西北部に位置するつがる市には、日本海沿岸に「屏風山」と呼ばれる広大な丘陵地帯があり、大小の沼が点在している。その中で、平滝沼、大滝沼、ベンセ沼に囲まれた湿原が「ベンセ湿原」だ。

標高約二〇メートル、面積約二十三ヘクタールの湿原は、苔などが腐らず幾重にも堆積してできた学術的に貴重なところ。日本自然百選に指定された、津軽国定公園を代表する景勝地となっている。

遊歩道をゆっくり散策すれば、どこからともなく聞こえる、野鳥の声。瞳を閉じれば、大自然の中に抱かれる心地よさを、感じる事ができる。

黄色い絨毯は、七月になると紫色に変わり、ノハナシヨウブが咲き誇る。

青森県地元で

見つけた！あのもり人。

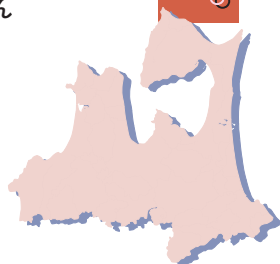
本州最北の下風呂温泉で、まったり：

風間浦村「shimofuroカフェ」店主

古川デザイン室代表

ふるかわ

古川 美香（ペンネーム・たちこ）さん



アテネオリンピックで世界的に有名になった「マグロ一筋」のTシャツを、ご存知だろうか。あの印象的なデザインを生み出したのが、昨春秋、風間浦村の空き店舗を活用し「shimofuroカフェ」をオープンさせた、古川美香さんだ。

風間浦村蛇浦生まれの古川さんは、県立田名部高校から東京都内の大学へ進学、就職。三〇歳を目前に、これからどう進め

ばいいかモヤモヤしていた時期

「あおぞら組」の活動に衝撃を

受け「田舎でも、やりたいこと

はできるかも」とUターン。

水産会社などで働きながら、あ

おぞら組で活動を続け、印刷物

のみならず地域のデザインを考

えるようになる。

空き店舗や廃業する旅館が

ある中「旅の人には温泉に浸

かったあとで、ゆったり、まっ

たりしてもらって地域の情報を

提供し、地元

の人には、い

ろんな人が集

まる場所を作

ることで、科

学反応が起き

ればおもしろ

いんじゃない

かなあ」と考

え、カフェを

オープンさせ

たのだ。

それは自己資金ではなく、下

北五市町村が運営し、インター

ネットで資金を集めるクラウド

ファンディング「FAAVO

（ファーブ）しもきた」の第一号。

「応援してくれる人が多ければ、

ここにホントに集える場所が必

要なのかわかるし、大間の隣

じゃない、湯のまち・風間浦村

を、多くの人に知ってもらえる

チャンスじゃないかって思いま

した」。

支援者へ自らデザインしたお

礼の品を作りながら、最初の三

日間で目標の三〇%を超え「余

裕だ」と思っていたら、パツ

タリ。「ヤバイ！資金が集まら

なければオープンできない」と

焦っていたとき、背中を押して

くれたのは、インターネットで

はなく、リアルな地元の人たち

だった。

「ファーブの事務局の人が動画を作って流してくれたり、メディアで紹介してもらったり、下風呂温泉おかみの会では、スケッチブックに応援メッセージを書いてフェイスブックで支援してくれました。インターネットは何にもわがんねーけど、と言って現金を持つてくる人もいたんですよ。何より、その心意気が嬉しかった。地元の人への働きかけの大切さを実感しました」と振り返る。

自由空間とも言えるカフェには、地元の本やゲームがいろいろ。珈琲は豆本来の味が楽しめ、紅茶もフランスのブランド。ランチには海藻など地のものを使い「自分がおいしいと思うもの、友だちを家に招くとき、ちょっといいものを出す、あの感覚を大切にしています」とにっこり。小学生が宿題を持ち寄って女子会をしたり、ベこもちを粉から作る教室を開いたり、外国人留学生との交流会や、地元の米と布海苔の佃煮でおにぎりを作るなど、さまざまな活動を行っている。

「風間浦村の魅力は、温泉と暮らしが今も昔のまま結びつい



ていること。いい意味の手つかずで、昭和がいっぱい残っている。ささやかでも自分の活動を見て、やりたい人がやりたいことをできるようになればって思います。ここに生まれて、ここに住んでいてよかったなあって思えるのが、いいよなあ」とポツリ。

いつもパワフルに泳ぎ続けるマグロと想っていたら「実は目の前にきたエサをぜんぶん呑み込む、ゆったり鮫鯨（風間浦村の特産）タイプでした。カフェのオープンには、自分の人生ではあまりない、自発的行動だったんですよ」と秘かに笑った。



ワインとの出会いが人生の転機、地元津軽ともワインを通して交流

フランスワイン専門店「ラ・ヴィネ」店長・ソムリエ
大鰐町出身

阿保 孝史さん



渋谷区と目黒区に跨るおしゃれな複合施設「恵比寿ガーデンプレイス」はいつも華やかな空気に包まれている。この一角にワイン通御用達の店として知られるフランスワイン専門店「ラ・ヴィネ」がある。

重厚なドアを開いて店内に入ると、美しいラベルをまとった数々のワインと店長の笑顔が迎えてくれた。店長の阿保孝史さんは津軽の出身だ。

なんとなく数居が高いワインの世界。緊張感を抱いて入店したが、阿保店長の親しみやすい人柄と穏やかな笑顔に気持ちが和んだ。

まずは店内にあるワインセラーに案内していただいた。ず

らりと並ぶ千五百瓶の巨大なマグナムボトル。八〇種類のマグナムボトルが一堂に並ぶのは、日本でもここだけ。そして店内には常時千八百種を超えるフランスワインが顔を揃えている。

阿保さんをはじめ店内にいる最前線のソムリエがフランスまで直接買い付けに行き、直輸入しているので、他店では手に入ることのできないエリアのワインも数多く並んでいる。

「ワインはもちろんブドウから出来ていて、農産物です。青森のリンゴと同じで農園がどんな地形にあり、日当たりがどうか、土壌の具合はどうかでブドウの味もワインの風味も当然変わってくる。ブドウ園の畝が一つ違うだけでで

え、伊豆のホテルで働きながら専門学校で学んだ。全日空ホテルに就職し、配属されたレストラン部門で運命的な出会いがあった。

「高価なワインがばんばん注文されるような場所だったのでも、そんなワインに興味が生まれ、独学でワインの勉強をしてソムリエの資格を取りました。ワインには味覚だけでなく、知識の面白さを兼ね備えた複合的な面があり、その奥深さが魅力でしたね」

その後、「ラ・ヴィネ」の前身であるパリの三つ星レストラン「タイユバン」のワインショップ「カーブ・タイユバン東京店」に勤務し、今に至っている。

年に三回は帰省し、地元との関わりも深い。NHK文化センター弘前教室では、阿保さんが講師となり「フランスワインを楽しむ講座」を年数回開いている。

「弘前はワイン好きの方が多い町ですね。フランス各地の珍しいワインを持って行き、テイティングをしてみたいながら、ワインにまつわる物語や歴史、産地などを紹介しています」講師をしているという子

どものころの友人に驚かれるという。人前で話すのは苦手。自分の思いを伝えることも下手だったと笑う阿保さん。ワインとの出会いが阿保さんの人生、性格までも変えてくれたよう

だ。「実際にフランスに行って、ブドウの産地を目にし、醸造所を訪ねるという実体験がベースにあるので語ることができるのでしょね。ワインの面白さ、奥深さを皆さんに伝えたいという思いが根底にあります」

ワインを発端にして農業や郷土食など、興味はどんどん広がっていく。

「フランスの地方にも干しタラを使った料理や保存食がたくさんあります。津軽の郷土料理との共通点もある。油をあまり使わない津軽の郷土料理には、デリケートな赤ワインが似合いそうですね！」と話す阿保さん。

青森の郷土料理とフランスワインとのマリアージュを楽しむ会など開いたら、楽しいだろうと思いは膨らむ。長いスタンスで故郷に貢献できたらと今は夢見ていと語る姿が印象的だった。



〈執筆者紹介〉
清水典子プロフィール

神奈川県平塚市生まれ。昭和54年から青森県弘前市に移住。子育ての傍ら、無農薬栽培を行う農家の支援活動、環境を守る市民運動、PTA活動などをしながら、リンゴ園で働く。平成5年より陸奥新報文化部に勤務。2年のアルバイト期間を経て正社員となり、平成10年より文化部次長、14年より論説委員となる。津軽に生きる女性たち取材した「私的に素敵」などの企画記事を担当してきた。平成19年5月よりフリーライター。著書に「私的に素敵-津軽の女性たち」「夢追い人」「童話の食卓へようこそ」「心の四季」聞き書き小野正文「故土津軽」「弘前の和菓子」などがある。ブログ猫の時間
<http://blog.livedoor.jp/necorima/>

ホッとタイム

きものの雑誌の取材で弘前の観桜会の特集を組みました。掲載は来年四月号となります。桜の取材は今年の春に終えないと来年の特集を飾ることはできません。撮影で一番気になったのはいつ満開になるのか。東京から編集部が行くので、見当をつけて段取りするほかありません。四月二十九日取材日とし、数か月前からモデルさんの手配などを済ませましたが、あとは「桜さま」のご機嫌任せです。取材当日の朝、雷鳴がとどろき、天に見放されたか？でもやるしかない！朝七時前、きもののモデルさん九人と弘前公園に出発しました。途中、ざつと雨も降りましたが、園内で一休みを兼ねて雨宿り。次第に雲が晴れ、嘘のように晴れ渡ってきました。雨上がりの桜はしっとりとした見事な美しさ。岩木山に感謝しつつ、無事に撮影を終えました。



下風呂温泉郷「新湯」

下風呂温泉郷「大湯」



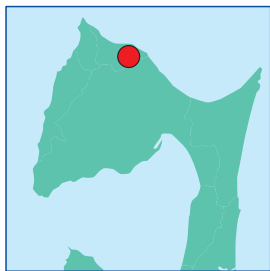
街角インタビュー



活イカ備蓄センター



活イカ備蓄センターの水槽



[風間浦村]

市町村めぐり

——あぁ、湯が滲みしてくる——
文豪・井上靖が、小説『海峡』のラストシーンを執筆するために訪れた、風間浦村の下風呂温泉郷。面積約七〇平方キロメートル、人口約二千人、下北半島の海岸線にある風間浦村は、総面積の約九十六％が山林、原野という、豊かな自然に恵まれたところだ。

下風呂温泉郷の歴史は古く、室町時代に遡り、南部藩主二十九代重信公も入湯したと伝えられている。硫黄の匂いがする乳白色の「大湯」、透明な「新湯」、砂鉄で黒く濁った「浜湯」…。三種の源泉があるのも魅力。

宿と浴場で、泉質の異なる温泉を堪能できる。



旅館に泊まり、浴衣を着て、下駄を鳴らして、夕暮れ時の温泉街を歩いてみる。

鉄道アーチ橋メモリアルロードから、さらめく漁火が、手が届きそうな程近くに見えた。翌朝、海沿いにある活イカ備蓄センターを訪ねると、大きな水槽では、スルメイカが元気に泳いでいた。元祖烏賊様レース、

船に乗って、昔ながらの漁法に挑戦できるイカ釣り体験、漁火ウォークポラリスを探せなど、夏の風間浦村は、

いつ来ても、楽しいアクティビティがいっぱい！足湯に浸かり、北海道を眺めていたら、潮と硫黄の香りが、心をやさしく溶かしてくれた。



風間浦村から見える漁火



下風呂温泉郷「新湯」

この春、神奈川県にある横浜子ども専門学校を卒業し、生まれ育った地元、風間浦保育所で働いています。保育士は体力勝負！担当する三歳児は、むずかしい年頃ですが、子どもたちは今何をしたいのか、それに対し自分はどう動けばベストなのか、常に考えながら子どもたちと接しています。風間浦村は、海もあり、山もあり、豊かな自然と人のあったかさがたまらない、いいところです。

風間浦保育所 保育士
飯田 美月さん



かざまつら産直友の会
(向かって左から)
会長 高橋美保子さん
副会長 濱邊 満里さん

国道一七九号沿いにある産地直売所「ふのりちゃん」で、特産のふのりをはじめ、岩のり、マツモ、ワカメ、コザルメ、のしイカ、のしタコなど、会員たちが採ったものを自然乾燥させていねいに仕上げて販売しています。山菜、野菜や、手作りの「長い昆布巻」も人気なんです！毎月第三日曜日は「ふのりちゃんまつり」として、ふのり汁の無料提供や、お惣菜の販売も行っています。ぜひ遊びに来て！



おらほめ一番

《特集：おらほめ一番》

魅力あふれる、
つがるの宝！
つがる市。

つがる市が誇る特産品・食文化・伝統文化・景観など、市民が選んだ「つがるの宝」。今回はその中から、とっておきのイベントと景勝地を紹介します。



馬市まつり

つがる市木造地区で、明治時代から行われていた東北三大馬市のひとつ「馬っこ市」。しかし、農作業の機械化により農耕馬の競馬が衰退していきました。そこで、昭和50年（1975）から、新田開発に尽くし亡くなった馬の霊を慰め、地域活性化を図ろうと行われたのが「馬市まつり」です。8月下旬、市民が製作した迫力ある「馬ねぶた」の運行に、仮装や流し踊りで練り歩くパレードが見物です。最終日の夜には「馬ねぶた」に点火し、農耕馬の霊を弔う「新田火まつり」と、花火の打ち上げが行われ、夏の夜空を彩ります。



チェスボローカップ



明治22年（1889）、つがる市車力沖合300m付近で、暴風によって座礁沈没した、米国メーン州バス市の巨船チェスボロー号の船員を、地域住民が救助。チェスボロー号遭難100周年をきっかけに、平成2年（1990）から始まったのが、チェスボローカップ水泳駅伝です。車力とバス市の

直線距離にあたる10,200kmを、1チーム5人の全参加者で合計距離を泳ぎ切る。テーマは「勇気と愛は海を超える」。全国はもちろん、世界各国からも参加者が集まるイベントです。



高山稲荷神社

七里長浜を望む高台にある高山稲荷神社は、五穀豊穡、海上安全、商売繁盛の神様として「高山のお稲荷さまにおこもりして祈願すれば願いが叶う」といわれ、地元はもちろん北海道など遠方からも参拝者が訪れます。まるで龍のように見える千本鳥居は、願いを叶えてもらったお礼に、これから願いが通るようにと、参拝者が建立しているそうです。桜の季節、青葉のころ、秋の紅葉…どの季節も美しい、パワースポットです。

つがる市 ネブタまつり

青森県内各地で行われる「ねぶた祭り」の中で、毎年7月下旬に県内の先陣を切って開催するのが、つがる市ネブタまつりです。青森で見られる人型のネブタや、弘前で見られる扇型のネブタなど、市民手作りの個性豊かなネブタが10数台出陣。太鼓や笛のお囃子と共に市内を練り歩きます。互いのネブタと太鼓を寄せ合い、激しいリズムと熱気であふれる「喧嘩太鼓」は必見!



史跡 「亀ヶ岡縄文時代遺跡」 亀ヶ岡石器時代造駅



国の史跡に指定され「亀ヶ岡文化」と呼ばれる、縄文時代晩期（約3000～2300年前）の集落遺跡・亀ヶ岡遺跡。ここから出土した遮光器土偶「シャコちゃん」の形をした迫力ある駅舎が、JR五能線木造駅。「シャコちゃん」の目を点滅させて電車の発着を知らせる「いらっしゃいびーん」は、とってもユニーク。特徴ある駅として「東北の駅百選」にも選ばれています。

前立腺は、男性だけにあり、精液の一部をつくっている臓器です。前立腺がんは、この前立腺の細胞が正常な細胞増殖機能を失い、無秩序に自己増殖することで発生します。

早期の前立腺がんには特徴的な症状はありません。しかし、前立腺肥大症により、尿

が出にくい、尿の切れが悪い、排尿後すっきりしない、夜間にトイレに立つ回数が多い、我慢ができませんに尿を漏らして

しまうこともあります。がんが進行すると、排尿の症状に加え、血尿や骨への転移による腰痛などが起こる場合もあります。

前立腺のがんには、男性ホルモンや、加齢によるホルモンバランスの変化が影響して



いると思われます。中高年に多くみられ、高齢化や食生活の欧米化、検査精度の向上により、患者数が増えています。

前立腺がんの早期発見には、定期的に「PSA検査」を受けることが重要です。

PSAの測定は、血液検査だけでわかります。正常値を超えたら、超音波検査や直腸内触診。MRIで前立腺がんの有無や進行度合いを確認します。

前立腺がんを予防するには、食事と生活習慣の改善が一番

です。高温の油で揚げたものを控え、リコピンが多く含まれるトマトや、イソフラボン

が豊富な豆類をたくさん食べましょう。

そして、規則正しい生活が心がけ、適度な日光浴と運動を行いましょう。喫煙はNGです。お酒もなるべく控え目に、質の高い睡眠でストレスを溜めないよう心がけましょう。

働き盛りの

健康法

夏バテを防ごう！

夏バテは、暑い季節に、体の体温調節機能が気温の変化に対応できず、自律神経調節機能が低下したり、食欲がなくなったり、体調不良を起すことをいいます。

予防するには①室内と外気温の温度差を少なくするため、エアコンなどの温度を高め、調節し、体温調節機能が低下しないよう工夫しましょう。②疲れを癒すための、睡眠もしっかりとて下さい。③汗によって失われた水分やミネラルを、こまめに補給することも必要です。④夏野菜は体を上手に冷やしてくれるので、積極的に食べましょう。⑤近年の研究で



は、動物の筋肉や回遊魚に含まれる「イミダペプチド」の疲労回復効果が注目されています。鳥の胸肉は、牛肉や豚肉に比べ、イミダペプチドを二〜三倍多く含んでいるそうです。この他、⑥内臓の冷えによる胃腸の働きを回復するには「酢しょうが」がおすすめです。しょうがの辛み成分で体を温め、酢のクエン酸は疲労回復効果があるので、夏冷え&夏バテに効果が期待できそうです。

あいちゃんの読んで得だね!

今回「やすらぎ」の取材で訪れた風間浦村とつがる市の、とっておき情報を紹介します!!

夏に体験してみたい! 烏賊様レースと鉄道アーチ橋メモリアルロード

《風間浦村》

■元祖烏賊様レース

東京・銀座で開催し、大反響を呼んだ「元祖烏賊様レース」。このユニークな常設レース場を設置しているのが、風間浦村にある活イカ備蓄センターです。

センター内には、いつでも新鮮な活イカを提供しようと、300パイのイカを常時備蓄できる水槽があり、風間浦村の特産品や水産加工品なども販売しています。

「元祖烏賊様レース」は、1周20mの水槽で活イカを泳がせ、勝敗を競うレース。出走したイカはプレゼントされ、その場で刺身にしてもらい味わうこともできます。下風呂温泉郷へ宿泊すれば、各宿でも調理してくれますよ。

レース開催期間は、7月中旬から10月下旬。誰でも参加できるので、ぜひ一度、挑戦してみたいはいかがでしょうか? 海がシケるとイカの入荷がなく、開催できない場合もあるので、事前に活イカ備蓄センターか、風間浦村観光協会へご連絡を!



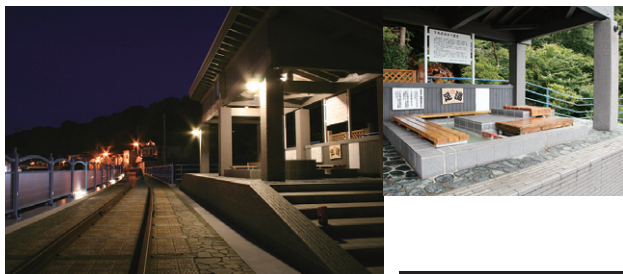
問い合わせ/
活イカ備蓄センター
TEL 0175-36-2112
風間浦村観光協会
TEL 0175-35-2010

■鉄道アーチ橋メモリアルロード(足湯)

戦時中、工事が中断された幻の大間鉄道が、平成17年(2005)春、遊歩道として生まれ変わりました。

遊歩道の中央には足湯が設けられ、入浴しながら津軽海峡や北海道の恵山岬を望むことができますよ。夜になると遊歩道がライトアップされ、海に浮かぶ「いさり火」を眺めながら、足湯を楽しむ気分は最高です!

「下風呂温泉郷を訪れたお客様に、気持ち良く足湯を堪能してもらいたい」と、下風呂温泉おかみの会のメンバーが清掃活動を行い、きれいな足湯を管理しています。

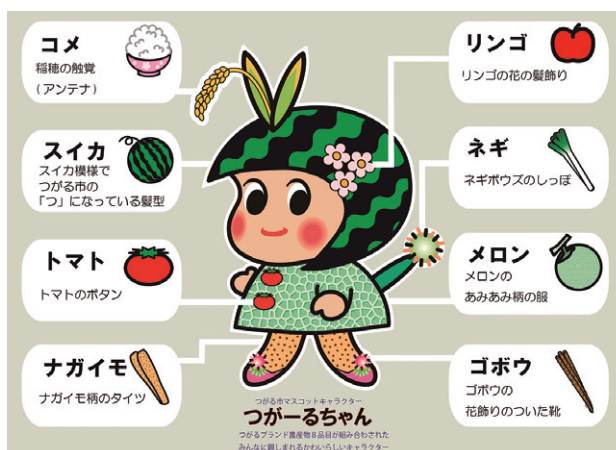


つがるブランド農産物でできたつがるちゃん!

《つがる市》

みなさんは、つがる市のPRキャラクター「つがるちゃん」を知っていますか? 「つがるちゃん」は、つがる市の「つがるブランド」農産物8品目を組み合わせた、みんなに親しまれている可愛いキャラクターです。そして、メロン、スイカ、リンゴ、コメ、ネギ、ゴボウ、トマト、ナガイモの「つがるブランド」の農産物は、生産者が丹精込めて育てた、どれもおいしいものばかり。つがるブランドで作った認定加工品もあります。ぜひ一度味わってみて!

<http://www.tsugarubrand.jp/web/index.html>



	コメ	県産米「つがるロマン」を中心に作付けしています。味と粘りが自慢のお米です。
	ネギ	砂丘地のネギは柔らかく、旨味たっぷり。
	ゴボウ	砂丘で育ったゴボウは、サクサクした歯ごたえが特徴です。
	トマト	昼と夜の温度差など、生育に最適な環境で育ったおいしいトマトです。
	ナガイモ	屏風山のナガイモは、雪のように真っ白で粘りが強くアクがないから、どんな料理にも最適。
	メロン	砂丘地帯の屏風山地域は、全国有数のメロンの産地。高品質で香り高い、とろける甘さが特徴です。
	スイカ	「屏風山スイカ」は、昼夜の寒暖差が大きいから糖度が増し、ジューシーでとっても美味。
	リンゴ	「日本最古のリンゴの樹」がある、つがる市。リンゴに適した環境で育ったリンゴは栄養満点です。

♡そして風間浦村と言えば鮫鯨。
旬は冬ですが、夏は「たいやき」み
たいな「あんこう焼き」とそれを揚
げたものがおすすめ。中に入っ
ているのは、あん&クリームでした。



♡ここでは、お土産も販売してい
るんですよ。「寒風干たこ」「真い
か塩辛」は、深い味わいが、たま
らないおいしさです。



♡みなさんは風間浦村で
「津軽海峡の塩」が作られ
ているって知ってましたか！その
味は、しょっぱさの中にも旨味が
あって、どんな料理にもぴったり。
「ばんやめし」に隣接する「塩工房」
では塩造り体験もできそうです。
そして、この塩で作った地サイ
ダーもありました。



♡おやつタイムは「Shimofuro
カフェ」へ。たらこちゃんが作る
プリンやシフォンケーキは、ほん
わかっていて、おいしいんです！

〈つがる市〉

♡イオンモールつがる柏のすぐ近
くにある「つがる市農産物直売所」
には、直売所のほか、魚屋、お菓
子屋、食堂もありました。



♡直売所には、地
元産直友の会のメ
ンバーが作った旬
の地元野菜から、果物、加工品ま
でいろいろ。魚屋さんには、鮮魚
がたくさん並んでいました。

♡しとぎ餅のお店では、しろあん、
つぶあん、よもぎなどをGET!あ
つあつの出来立てが美味でした。



♡みなさんは「すしこ」を食べた
ことがありますか？餅米、キュウ
リ、キャベツ、シソの葉で和えた
漬物は、ごはんのお供にぴったり。
ごはんでごはんを食べる！これ、
つがる市ではあたり前の光景だそ
うです。



♡「ところてん」も人気商品のひ
とつ。つがる市農産物加工セン
ターで手作りされているそうで、
夏は1日200
個も売れる
んだって。



♡食堂では、地元産のナガイモを
使った「とろろご飯」が300円！「貝
焼き味噌定食」は780円。ほかに「と
んかつ定食」「しょうが焼き定食」
「辛味噌ラーメン」「黒とんこつネ
ギラーメン」をいただきました。

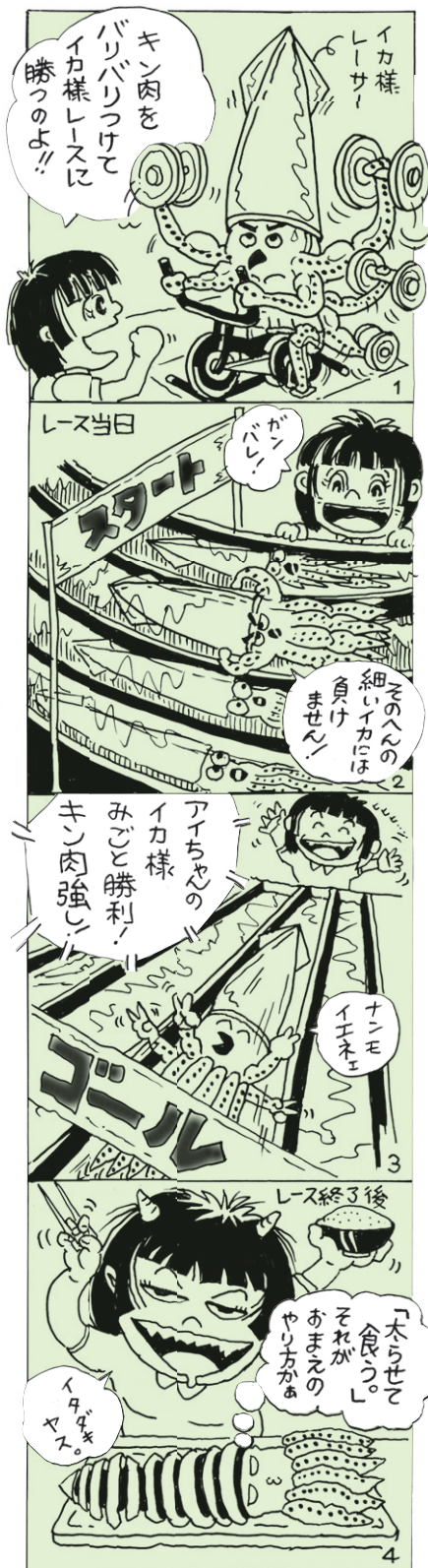


♡つがる市にはこのほか産直が
「道の駅もりた」や「むらおこし
拠点館フラット」にもあるので、
ぜひ立ち寄ってみて！

あいちゃんのほのぼのコーナー

— イカ様オーナーの巻 —

♡ 取材こぼれ話



〈風間浦村〉

♡ 風間浦村ならではのお土産を求めて向かったのは、国道279号沿いにある産地直売所「ふのりちゃん」。人気の「長〜い昆布巻」は、中に身欠きニシンが入って1本100円! ほんのり醤油味がたまらない美味しさです。



♡ 新発売の「みそ汁の具」は、海藻も野菜も地元のお母さんたちが採って乾燥させたもの。「特製海藻セット」は、こんぶやひじき、ふのりがセットになっているんですよ。「岩のり」はとっても香高く、醤油をつけておにぎりにすれば、最高です!



♡ ほかに「のしのか」「べこもち」、布海苔を練り込んだ「布海苔そば」など、海の幸がいっぱいでした。



♡ ランチタイムは「ばんやめし」へ。今が旬の「うに丼」は、身も大きくて美味。「ヤリイカ定食」「刺身定食」は、鮮度抜群! このボリュームで1,000円は安い。



くみあい 情報板

平成29年度一般会計予算

歳入	負担金	12,040,309
	財産収入	13,774
	繰越金	1,000
	諸収入外	2,967
	計	12,058,050

(千円)

歳出	議会費	679
	総務費	83,327
	給付費	11,970,643
	予備費外	3,401
	計	12,058,050

(千円)

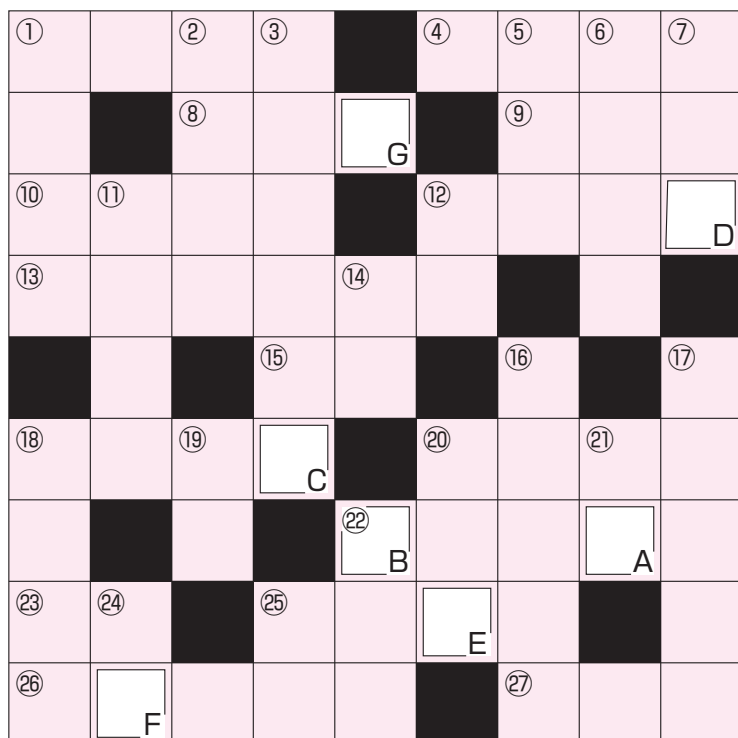
組合ホームページをご利用ください <http://aomori-taite.jp>

(主な内容／概要・例規集・様式・事務の手引・試算・支給割合表・構成団体の決算状況・お知らせ・リンク集)

●やすらぎVol.72 (2017.1号) 街角インタビューに掲載された道の駅ろくのへ駅長 蟹谷洋江さんが平成29年1月4日、逝去されました。謹んでお悔み申し上げます。

※平成29年1月号へたくさんのご感想、ご意見を頂きありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。

あいちゃんのクロスワードパズル



回の中の文字をABC順に並べると、ある言葉ができます。(ヒントは「やすらぎ」の中にあります。)

はがきにクロスワードの答えと、住所、氏名、年齢、電話番号、所属市町村名、「やすらぎ」へのご意見、ご感想、メッセージを添えて、青森市堤町2丁目1-1青森県市町村職員退職手当組合「やすらぎ」編集室までお送り下さい。正解者10名様に抽選で素敵なプレゼントを差し上げます。締切／平成29年7月末日消印有効

《タテのカギ》

①夜間、魚をおびき寄せるため漁船で焚く火 ②内陸の広大な砂地は「砂漠」、海辺の広大な砂地は?、つがる市の七里長浜もそのひとつ ③空の色は「スカイブルー」、海の色は? ④例えば1月から3月までとか夏から冬までとか ⑤風間浦村にある「○○○○温泉」 ⑥飛行機を利用することに貯めることができる「フライト○○○」 ⑦「如雨露」(花などに水をかける容器) ⑧鋭く物事をつかむ心の働き、「第六○○」 ⑨むつ市脇野沢村に生息する「北限の○○」 ⑩自動車の前部にあるエンジンを覆うカバー ⑪旅と酒を愛した異色の俳人「種田○○○○○」 ⑫日本髪に似合う装飾品 ⑬「○」に冠を正さずとは、あらぬ疑いをかけないよう紛らわしいことはするなという戒めの言葉 ⑭化粧品などを入れる小型のカバン? ⑮「豚○○」「串○○」 ⑯室外の空気 ⑰小さな建物、物置とか家畜などの飼育室 ⑱「稀有」(めったにない、珍しい)

《ヨコのカギ》

①風間浦村で毎年7月に開催される名物行事、「○○○○レース」 ②つがる市の七里長浜の「○○○○海岸」は、夏の期間海水浴場として人気のスポット ③「○○○も老いては驚馬(どば)に劣る」 ④障子や襖をはめ込むため上部に取り付けられた横木、因みに下部に取り付けられた横木は「敷居」 ⑤事業や商売などで得る利益、儲け ⑥「○○○○○剤」とは、駄目になりかけた物事を復活させるための手段として比喩的に使われる言葉 ⑦砂防林で知られるつがる市の広大な丘陵地帯、スイカやメロンの産地としても知られる ⑧のべつ幕なし、止め処なくという意味、漢字で「繰繰」と書く ⑨食物などに含まれる熱量の単位、糖尿病や肥満体質の人は、特に気にしているもの ⑩「極相」(くだもの) ⑪「石榴石」(1月の誕生石) ⑫「雑魚」 ⑬「啓蟄」二十四節気のひとつ ⑭つがる市竜ヶ岡遺跡から出土した「○○○○○土偶」 ⑮「鶏冠」

前回パズルの当選者

厳正な抽選の結果、次の10名様が当選しました。おめでとうございます。(応募数128名)

〈前回パズルの解答〉

みちのえきいかりがせき

〈所属市町村名・氏名〉

五所川原市	山田瑞子	深浦町	黄金崎芳幸
十和田市	松尾誠子	野辺地町	藤谷俊徳
三沢市	小島一人	六ヶ所村	石久保侑里香
つがる市	工藤正輝	つがる西北五広域連合	羽場恵利子
つがる市	新岡大生	つがる西北五広域連合	斉藤由賀子